

商用データベースを使った調べ案内Ⅱ

皆さんは図書館で何かを調べるとき、どのような方法で情報を探しますか？図書館には、図書や雑誌などの活字資料の他に、データベースと呼ばれる資料があります。データベースには、膨大な量の情報が検索しやすいように整理された形で収録されています。そのため、活字資料では調査に時間がかかる事柄も、データベースの検索機能を用いて素早く確認することができます。

当館では、利用者用インターネット端末から、いくつかの商用データベースを利用することができます。今回はその中から、「官報情報検索サービス」とその使い方をご紹介します。

1. 官報情報検索サービスとは

官報情報検索サービスには、昭和22年5月3日から現在までに発行された、官報の記事が収録されています。活字で発行されている官報と同様に、公布された法令や省令、国家資格の試験情報など、政府から発表された情報を検索・確認することができます。情報は国立印刷局より提供されています。

また、このデータベースでは「号外」や「政府調達広告版」など、活字では別々に発行されている官報の記事をまとめて調べることができます。そのため、どの紙面に自分の読みたい記事が掲載されているのか分からない場合でも、検索機能を使って簡単に調べることができます。

表示される記事の本文は、印刷された文章とは違

い、紙面を拡大・縮小して閲覧することもできます。

また、当日発行分の情報を午前中に更新するため、常に最新の情報を確認することが可能です。

なお、富山市立図書館本館では過去5年分の官報を現紙で保管しています。現紙を直接ご覧になりたい場合は、本館・参考図書室をご利用ください。



トップページ画面

2. 利用のしかた

官報情報検索サービスは有料データベースであり、富山市立図書館本館及び、とやま駅南図書館の利用者用インターネット端末で利用することができます。利用の際はログインが必要になりますので、窓口でお申込みください。また、同時アクセス数に制限があるため、他の方の利用が終わるまでお待ちいただく場合があります。

データベースにログインすると、最初にメニュー画面が表示されます。メニュー画面上にある【ヘルプ】メニューでは、各画面の見方や、検索の方法などについて確認することができます。

なお、検索した画面を印刷する場合は、窓口職員にお尋ねください。

3. 情報の調べ方

官報情報検索サービスでは、以下のような方法で、記事を検索することができます。

【日付検索】

官報の発行日から前後 30 日の検索が可能。

【記事検索】

記事の内容や省庁名などから、キーワード検索が可能。

【国会議員検索】

国会議員の氏名から検索が可能。議員一覧から選択することもできる。

【法令等号数検索】

「記事種別」・「省庁名」・「号数」などを指定することで法令の号数から検索ができる。

では、官報情報検索サービスを使って実際に記事を調べてみましょう。今回は、基本的な 2 種類の検索方法を使って、「H24 年 7 月 6 日発行の号外に掲載された介護福祉士国家試験の試験情報」を検索してみます。

(1) 日付検索から調べる

探している記事の掲載日時がわかる場合や、特定の号を確認したい場合などは「日付検索」が便利です。

まず、メニュー画面にある「日付で検索する」と書かれたボタンをクリックし、日付検索の画面を表示させます。

発行日を西暦また和暦で入力し、その日から前後 30 日間のどちらかで範囲を指定し、【検索実行】ボタンを押します。【検索実行】ボタンを押すと、指定した検索期間に発行された官報の一覧が表示されます。

確認したい号数と表示形式を選択し、【テキスト】か【イメージ】のいずれかのボタンをクリックします。ちなみにイメージ表示の場合は官報と同じ紙面で記事を確認することができます。

紙面は「前ページ」、「次ページ」のボタンで移動することができます。また、ページ数を指定し、決まったページにジャンプすることも可能です。テキスト表示の場合は目次のページにそれぞれの記事のリンク先が表示されているので、そこから目的の記事にジャンプすることもできます。

今回の場合は、H24 年 7 月 6 日発行の号外に掲載されている記事を確認するので、7 月 6 日に発行日を設定し、【検索実行】ボタンをクリックします。

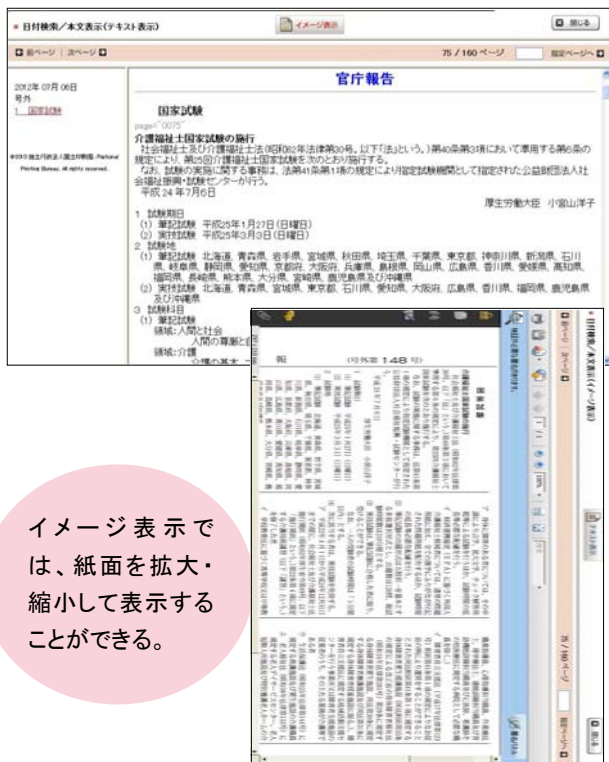


発行日順に 30 日分の一覧が表示されるので、7 月 6 日の号外を選択し、紙面を表示させます。目次ページから「介護福祉士国家試験の施行」の項目を確認し、該当のページを確認します。

NO	発行日	種別	号数	表示形式
1	2012年07月06日	本紙	5837	テキスト イメージ
2	2012年07月06日	号外	148	テキスト イメージ
3	2012年07月06日	政府関連	128	テキスト イメージ
4	2012年07月06日	特別号外	22	テキスト



テキスト表示



イメージ表示

(2) 記事検索から調べる

探している記事の掲載日や掲載紙の種別が分からない場合や、複数の関連記事を調べる場合には、「記事検索」が便利です。

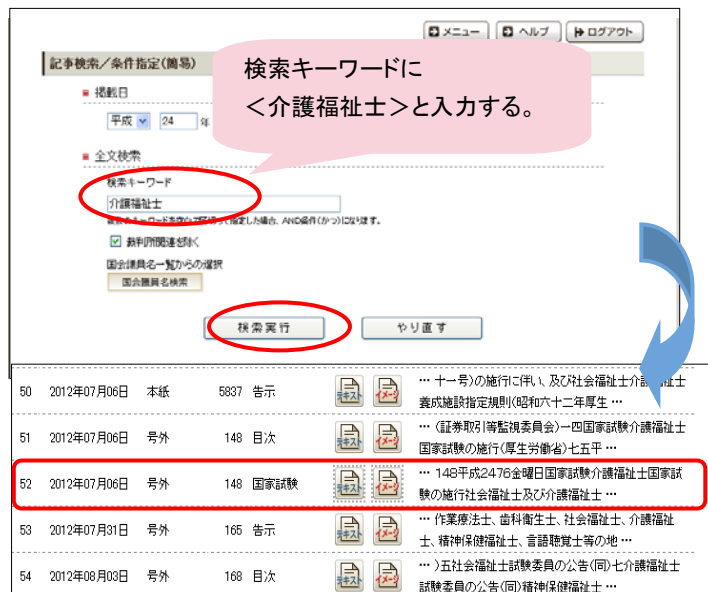
まず、メニュー画面にある「記事で検索する」と書かれたボタンをクリックし、記事検索の画面を表示させます。次に調べたい記事の内容などをキーワードで入力します。また、掲載日をしばりこむ場合は、掲載日の範囲を指定します。

検索ボタンを押すと、検索結果の件数が表示されます。一覧表示の順番を指定し、【検索結果表示一覧】を押すと、検索結果の一覧が表示されます。

「検索結果一覧」では、掲載日や号数の他に掲載項目や記事の概要を確認することができます。

今回の場合は、介護福祉士の試験情報を調べるので、【介護福祉士】をキーワードに入力します。

検索結果一覧に表示される掲載項目から【国家試験】の情報を確認していくと、「介護福祉士国家試験の施行」という記事名で、平成25年に実施される介護福祉士国家試験の試験情報が見つかりました。



検索結果一覧画面

このように、商用データベースを使うと、効率よく目的の情報にたどりつくことができます。

図書館では、今回紹介した「官報情報検索サービス」の他に、過去の新聞・雑誌記事を検索できる「日経テレコン 21」や、法律や判例の検索に便利な「D1-Law.com」などの商用データベースを利用することができます。目的にあわせてご活用ください。

(本館 山木)

図書館コンピューターシステム更新に伴うパスワード再登録のお願い

平成25年2月20日(水)より、図書館コンピューターシステムを更新します。それに伴い、富山市立図書館ホームページをリニューアルします。新ホームページから資料予約をする場合、既にインターネット予約のためのパスワードを登録されている方は、再登録が必要になります。新ホームページの利用者ポータルに、今までお使いいただいていたパスワードでログインした後、再度、パスワードを登録してください。お手数をおかけいたしますが、よろしくお願いたします。

(本館 新保)

レファレンスあれこれ

Q. 江戸時代、神通川にかけられていた船橋が、大水などの緊急時以外に外すことがあったのかどうか知りたい。

A. 景観日本一とたたえられた富山の船橋は、富山を代表する名所の1つとして、多くの絵画や詩歌の題材となってきた。

『富山市史通史編 上』(富山市 1987)には、「富山舟橋と渡場」の項目があり、船橋の歴史と運営について書かれている。これによれば、船橋は富山城下小島町と対岸の舟橋村の間に、慶長10年(1605)に架けられ、運営は渡し舟だった頃の船頭によるものから、加賀藩、後に富山藩独自のものになったとされている。

この船橋の架設位置については、近年研究が進んでいる。『特別展 街道を歩く—近世富山と北陸道』(富山市郷土博物館 2011)では、小島町がいたち川河口から入り込んだ場所にあり、架橋地点とは考え難いことなどの理由から、舟橋村と七軒町の間にあったと考えられるとし、「神通川船橋の変遷」の図が掲載されている。

この資料には、船橋番人の規定や修復の規定のほか、増水時に船橋が流出するのを防ぐため、左右両側に橋を切り離す「切り分け」の規定が一部紹介されている。その1つに、「水が印杭(危険水量の印をした水量計)を超えた時、船橋番所から町奉行などへ連絡する」という取決めがあり、藩の許可がなくては、船橋を外せなかったことがわかる。

『歴史の中の都市と村落社会』(思文閣 1994)の「富山船橋考」(高瀬保)には、その規定の原文である「船橋御修覆方之事」、「船橋出水之節之事」が掲載されており、船橋の歴史やその管理について記されている。この資料からは、夜間は人命尊重のために「切り分け」は行われないことや、「切り分け」後は渡し舟になったことなどがわかる。「船橋御修覆方

之事」、「船橋出水之節之事」は、富山藩前田家伝来の前田文書の「町方旧記抜書 下」(富山県立図書館蔵)の中に記されているもので、船橋研究における貴重な手掛かりの1つとなっている。

では、神通川を利用した水運の際に、常設の船橋が障害になることはなかったのだろうか。水上交通に関する記述を調べていくと、『富山市史』の「神通川の水運」の項目に、「神通川は富山藩米の川下げや飛騨木材の川下げに利用された」とある。

また、『大沢野町史』(大沢野町 2005)から、船荷の輸送に東岩瀬から牛ヶ増・寺津までの経路が利用されていたことがわかったが、船橋を通過したという記述や、通り方についての記述はなかった。

『近世越中の木材流通と東岩瀬港』(富山港植物検疫協会 1980)には、神通川を使った木材輸送に関しては、資料が極端に少ないため、庄川水系の資料から類推するしかないであった。

このことについて、富山市郷土博物館の坂森専門学芸員に問い合わせたところ、船橋の「切り分け」には危険な作業が伴うため、洪水時以外は行われることはなく、その実施は藩の上層部が決定していたことが記録に残っているとのことであった。また、船橋は富山城に近い場所にあったため、舟の往来は制限され、飛騨からの木材が船橋を通過する際は、船橋を構成する舟と舟の間に木材を通していたと考えられるそうである。

また、坂森氏の近年の研究に『神通川船橋の工学的考察』(貴堂巖、坂森幹浩※1)がある。この資料では、これまでの船橋研究に見られなかった工学的な視点からの考察がなされ、船橋の維持管理についても詳しく解説されている。そのほか、近世の記録や随筆の記述に基づいた「神通川船橋年表」が掲載されている。(本館 小林)

(※1)『土木史研究 講演集 Vol. 32 2012年』所収